

薩摩半島南西部の野間岬沖における鯨類目視調査により確認された カツオクジラとハシナガイルカ

中村潤平・藤田彩乃・佐々木 章

〒 892-0814 鹿児島市本港新町 3-1 いおワールドかごしま水族館

はじめに

鹿児島県の薩摩半島南西部に位置する野間岬沖は多様な鯨類が出現する海域として知られている。1996年から2003年にかけて野間池漁協（現在の鹿児島県漁業協同組合南さつま野間池支所）によって夏～秋季にホエールウォッチングが実施されており、“ニタリクジラ”や小型ハクジラ類が観察対象となっていた（中原ほか，1999；鹿児島県漁業協同組合南さつま野間池支所，私信）。また，2002年から2005年にかけては本海域に出現する“ニタリクジラ”の個体識別も実施されていた（木白，2012）。しかし，現在はホエールウォッチングや鯨類の調査は実施されておらず，近年の本海域に出現する鯨類に関する知見は乏しい状況である。なお，上述の“ニタリクジラ”は現在ではカツオクジラ *Balaenoptera edeni* Anderson, 1879 と考えられる（結果と考察の項を参照）。

そこで，鹿児島県内の鯨類の生息状況と種多様性を解明するため，2024年8月6日に野間岬沖海域で船舶を用いた鯨類の目視調査を実施した。その結果，カツオクジラ *B. edeni* とハシナガイルカ *Stenella longirostris* (Gray, 1828) が確認され，薩摩半島南西部沖における鯨類の出現情報を記録するために調査により得られた結果の概要を報告する。

材料と方法

鯨類の目視調査は2024年8月6日の9時から15時にかけて野間池漁港から小型船舶（第三栄進丸）を用いて船長とかごしま水族館職員3名に

より野間岬と下甕島間の海域で実施し（Fig. 1），鯨類を発見した際は写真と動画を撮影した。鯨類の分類体系，標準和名，および学名は田島・山田（2021）の「海生哺乳類 種名表」にしたがった。

結果と考察

2024年8月6日に野間岬沖海域で船舶を用いた鯨類の目視調査を実施した結果，野間岬沖と下甕島間に位置する地点（Fig. 1）でカツオクジラ *B. edeni* (Figs. 2, 3) 1頭とハシナガイルカ *S. longirostris* (Fig. 4) の大群を確認した。カツオクジラの体長は推定10 m程であり，発見時に周囲にはカツオ *Katsuwonus pelamis* (Linnaeus, 1758) (Fig. 3B) の群れが確認された。ハシナガイルカは規模の大きい群れであり，500頭から1000頭以上の個体数であると考えられる。ハシナガイルカはイワシ類と思われる小型魚類を摂餌しており，同所ではカツオドリ *Sula leucogaster* (Boddaert, 1783) など海鳥による鳥山も形成されていた。また，ハシナガイルカを観察中，一部の個体は調査船と並泳し，周囲ではスピンジャンプなど多様な行動が観察された。また，野間池漁港を出港後，野間岬北方沖約1.5 kmで種不明イルカ数頭を確認したが，すぐに見失い写真等データは得られなかった。

本調査によって確認された鯨類は下記の理由によりカツオクジラとハシナガイルカに同定した。ヒゲクジラ類は頭部背面に3本の稜線があるカツオクジラまたはニタリクジラ *Balaenoptera brydei* Olsen, 1913 の特徴（Yamada and Ishikawa,

Nakamura, J. A. Fujita and A. Sasaki. 2025. Records of the Eden's Whale and the Spinner Dolphin confirmed by cetacean sighting surveys off Cape Noma, Kagoshima Prefecture, Japan. *Nature of Kagoshima* 51: 237-239.

☑ JN: Kagoshima City Aquarium, 3-1 Honko-shimmachi, Kagoshima, 892-0814, Japan (e-mail: j-nakamura@ioworld.jp).

Received: 25 February 2025; published online: 27 February 2025; https://journal.kagoshima-nature.org/archives/NK_051/051-051.pdf

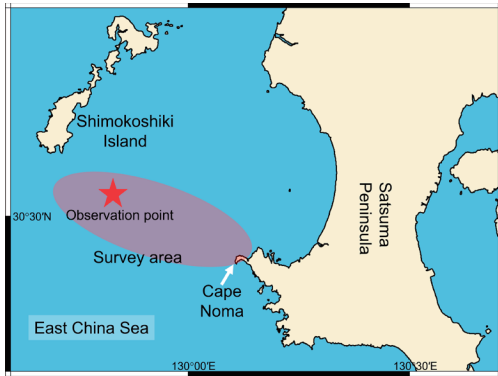


Fig. 1. Survey area in this study.

2015) が確認された (Fig. 2). ニタリクジラとカツオクジラには分類学的混乱が生じていることに加えて、両種の外部形態による識別は困難であるが、本報告では日本周辺海域に出現する“ニタリクジラ”において沿岸域に出現する個体群はカツオクジラ *B. edeni*, 外洋域に生息する個体群はニタリクジラ *B. brydei* とする大石ほか (2004) や Yamada and Ishikawa (2015) の見解にしたがい、本調査で頭部背面に 3 本の稜線があるヒゲクジラ類が確認された場所が沿岸域であるため、カツオクジラであると判断した。また、イルカ類は吻部が細く長いこと、メロンはめだたないが、メロンと吻の間に明瞭な境界があること、色彩 (暗色の背部, 灰色の体側, 白色の腹部) などの特徴 (笠松ほか, 2009; Mori, 2015: Fig. 4A) によりハシナガイルカと同定した。なお、これまで鹿児島県内においてハシナガイルカのストランディング記録は 4 件 (南さつま市 2 件, 鹿児島湾 1 件, 加計呂麻島 1 件) のみであったが (中村ほか, 2024), 野間岬沖の東シナ海において本種は多くの個体数が生息していることが明らかになった。

本調査でカツオクジラとハシナガイルカが確認された場所は野間岬沖と下甕島の上に位置する水深 500 m 前後の地点であり、鯨類の他にも中型魚類のカツオやカツオドリなどの海鳥が集まっており、それらがイワシ類と思われる小型魚類を摂餌していた。そのため、カツオクジラやハシナガイルカも小魚を捕食するために本海域に來遊して

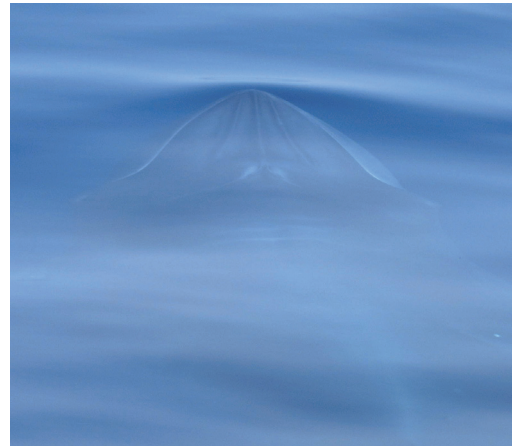


Fig. 2. Photograph of three ridges on the head of the Eden's Whale *Balaenoptera edeni* taken off Cape Noma, Kagoshima Prefecture, Japan.

いたと考えられる。そのため、現在も野間岬沖海域は夏季の鯨類の摂餌場として機能し、多くの鯨類が集まる海域であると考えられる。また、鯨類発見地点は水深 500 m 程から水深 100 m 程までかけ上がっている斜面域であり、生産性の高い場所であると考えられる。

本調査では野間岬沖で確認された種不明のイルカ類を除き、カツオクジラとハシナガイルカ以外の鯨類は確認されなかったが、以前野間池漁協により実施されていたホエールウォッチングの際にはマッコウクジラ *Physeter macrocephalus* Linnaeus, 1758, アカボウクジラ科 Ziphiidae, およびマイルカ科 Delphinidae のゴンドウ類などの鯨類も野間岬沖海域で観察されており (鹿児島県漁業協同組合南さつま野間池支所, 私信), 今後も本海域で目視調査を実施することにより多くの鯨種が確認され、鹿児島県の鯨類相の詳細が明らかになることが期待される。

謝辞

本報告の執筆に際して、鹿児島県漁業協同組合野間池支所の川畑照弘氏と第三栄進丸の上村道則氏には目視調査の実施と情報提供にご協力いただき、NPO 砂浜美術館の大迫綾美氏にはカツオクジラに関する情報をいただいた。上記の方々に深く感謝申し上げます。

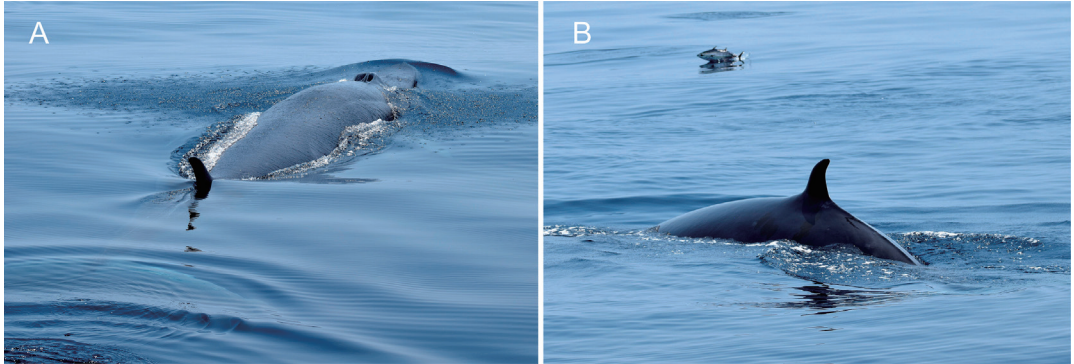


Fig. 3. Photographs of the Eden's Whale *Balaenoptera edeni* taken off Cape Noma, Kagoshima Prefecture, Japan.

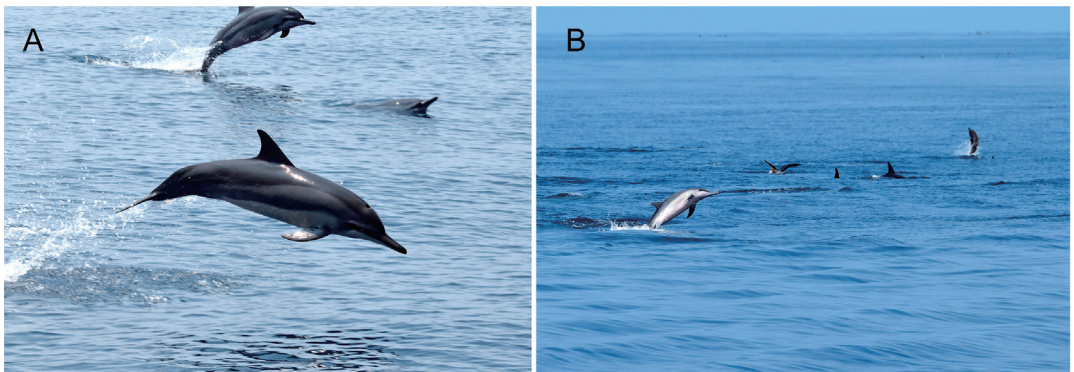


Fig. 4. Photographs of the Spinner Dolphin *Stenella longirostris* taken off Cape Noma, Kagoshima Prefecture, Japan.

引用文献

- 笠松不二男・宮下富夫・吉岡 基. 2009. 新版 鯨とイルカのフィールドガイド. 東海大学出版会, 東京. 148 pp.
- 木白俊哉. 2012. 西部北太平洋、特に南西部日本沿岸におけるニタリクジラの資源生態学的研究. 博士学位論文 (東京海洋大学). 260 pp.
- Mori, K. 2015. *Stenella longirostris* (Gray, 1828). pp. 390–391. In: Ohdachi, S. D., Y. Ishibashi, M. A. Iwasa, D. Fukui and T. Saitoh. (eds.) The wild mammals of Japan, 2nd. Edition. Shoukadoh Book Sellers, Kyoto.
- 中原尚知・妻 小波・松田恵明. 1999. 観光漁業の社会的効用 野間池くじら・イルカウォッチングを事例として. 地域漁業研究, 39: 245–263.
- 中村潤平・柏木伸幸・久保信隆. 2024. これまでに鹿児島県内で確認されてきた鯨類のストランディング記録. Nature of Kagoshima, 50: 161–175.
- 大石雅之・和田志郎・山田 格. 2004. ツノシマクジラ *Balaenoptera omurai* 調査概報といわゆるニタリクジラ *B. edeni*, *B. brydei* の分類. 日本海セトロジー研究, 14: 1–12.
- 田島木綿子・山田 格 (監). 2021. 海棲哺乳類大全 彼らの体と生き方に迫る. 緑書房, 東京. 351 pp.
- Yamada, T. K. and H. Ishikawa. 2015. *Balaenoptera brydei* Olsen, 1913. *Balaenoptera edeni* Anderson, 1878. pp. 333–335. In: Ohdachi, S. D., Y. Ishibashi, M. A. Iwasa, D. Fukui and T. Saitoh. (eds.) The wild mammals of Japan, 2nd. Edition. Shoukadoh Book Sellers, Kyoto.